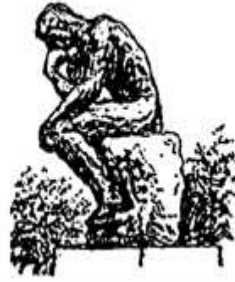


# 環流



第182号 令和4年9月30日

<目次>

児童生徒の活動：  
 忍路中央小学校・忍路中学校……P1  
 巻頭言：代永 研 校長……P1  
 環境教育研修講座……P2  
 ふるさとキャリア教育研修講座……P3  
 北海道教育研究所連盟夏季研修会より……P3  
 教育研究所情報：教育相談、ICT 支援員、SSW 関係……P4



忍路漁港にてウニ漁の説明を受ける小学生 ←

## 「できない理由をさがすより、やれる方法を考える」

小樽市立忍路中央小学校・忍路中学校 校長 代 永 研



同じ校舎に小学校と中学校、職員室は小中一緒という新たな環境で、本校は今年度より小中併置校としてスタートしました。この小中併置に向け、小樽市教育委員会をはじめ、多くの関係者の皆様に御支援・御協力をいただきましたことに、この場を借りてお礼申し上げます。小中併置校としての門出にあたり、児童生徒・教職員双方にとって「この併置がプラスになったと実感できること」を第一に考え、小中の教職員が互いにリスペクトしあい、小学校と中学校の文化の違い、それに伴う様々な調整事項や課題をひとつずつ解決しながら教育活動をすすめております。

中学校全教科担任による乗り入れ授業をはじめ、忍路地区の特色を生かした内容のふるさとキャリア教育、中学生も参加した運動会、中学生による小学生への読み聞かせなど、小中併置校の利を生かした取組を行っています。乗り入れ授業や小中合同研修を通して、小学校の教職員からは「中学校専科による指導で子どもの力が伸びている」、中学校の教職員からは「小学生の指導を通して得られる学びがある」等、互いに学ぶべきところがあると前向きに捉え、併置の「よさ」を実感し、活気ある雰囲気の中で教育活動をすすめることができていることを何より嬉しく思っています。

今後も小中のつながりを大切に、併置校だからできることや特色を生かしつつ、「できない理由をさがすより、やれる方法を考える」を軸に据え、より質の高い教育活動を目指し、教職員一丸となって取り組んで参ります。

# 「環境教育研修講座」

～「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の活用を通して～

8月3日（水）、小樽市教育委員会別館会議室において「環境教育研修講座～『新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）』の活用を通して～」を開催しました。今回は、今年度から利用ができるようになった「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の活用を柱に、実際にChromebookを利用して楽しくわかりやすい理科の授業の指導方法等について参加者21名で研修を深めました。研修講座の概要については、次の通りです。



## 1 「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の編集の意図等（瀧口主査）

- 「新版おたるの自然」の特徴として、①教科書と関連付けてあるので授業で活用できること、②小樽で見ることのできる内容が豊富に載っていること、③写真等がたくさん掲載されていて視覚で捉えることができることなどが挙げられる。
- 「新版おたるの自然（デジタル版）」は、①冊子版のすべてをデータ化し、②「分野別」「学年別」で構成され、③草花、昆虫、川などの画像や音声・動画の視聴が可能である。

## 2 「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の利用方法等（藤平ICT支援員）

- 講師から、参加者と一緒にChromebookを実際に操作しながら次の説明があった。（一部抜粋）
  - ・デジタル版では、「各学年」から学習する内容のページへ移行し、そこから必要な写真、動画などを見ることができる。
  - ・公園のページでは、グーグルの機能を使って、公園や周りの様子を見ることができる。
  - ・記載されている画像を並べて表示することができる。この機能を使うと、外で撮ってきた写真などとの比較ができる。
  - ・調べたいページに移行できるように工夫して作成している。



## 3 実践事例1（忍路中央小学校・忍路中学校 佐野英昭 教頭）

- 講師から、小中のつながりを意識した具体的な指導について説明があり、その中で、中学校で学習する内容の基礎が小学校で学習してきているにも関わらず、中学校に来るまでに忘れてしまっている子供が多いとの話があった。
- 小学校の「物質とエネルギー」と中学校の「第一分野」、小学校の「生命・地球」と中学校の「第二分野」の関連について、忍路中央小学校・忍路中学校の理科単元配当表を見ながら説明があった。その際、デジタル版との関連も触れていた。

## 4 「実践事例2（銭函小学校 福岡氷見子 教諭）」

- 講師から、「おたるの自然（デジタル版）」との関連が示されている年間指導計画の説明があった後、参加者と一緒にChromebookを実際に操作しながら、「おたるの自然（デジタル版）」を活用した次の実践例が紹介された。（一部抜粋）
  - ・「1年生生活科 なつがやってきた」では、「草花」「こん虫」で学校の周りの草花やこん虫を見ることができる。また、「公園」で、市内の公園の自然観察ができる場所やそこで見ることのできる生物を確認できる。
  - ・「5年生理科 花から実へ」では、タンポポ、クローバー、オオイタドリなどの花のつくりや結実について見ることができる。オオイタドリは、校舎周辺でも多く見られるので、「おたるの自然」で確認してから、観察に出かけることもよい。



参加者からは、「デジタル版を使うことで、子供たちにとって視聴覚的に分かりやすいと思うので、さっそく活用したい。」「デジタル版を関連付けた指導計画や単元配列の説明がわかりやすく、参考になった。」など、今後の学習指導に生かしていきたいとの意見・感想が多く出されました。



## ふるさとキャリア教育研修講座 ～歴史的価値のある施設・街並みの活用を考える～

日程：7月25日(月)～  
8月26日(金)  
形態：オンデマンド  
講師：小樽市総合博物館  
館長 石川 直章 氏

今年度のふるさとキャリア教育研修講座は、昨年度同様オンデマンド形式で開催し、市内の小中学校から101名の先生方に視聴して頂きました。講師の小樽市総合博物館 石川直章館長に、明治時代以降における小樽の歴史を、石炭、鉄鋼、港湾、鉄道といったテーマでご紹介して頂きました。「小樽から見た炭鉄港」というタイトルの本動画は、近代北海道を築く基となった3つの都市(空知、室蘭、小樽)から、特に小樽に焦点を当て、小樽の歴史について、小樽で働く多くの人々の姿を通して一つの大きなストーリーとしてまとめられています。空知から小樽に鉄道が敷設された理由、北前船から続く小樽港と防波堤作りを支えた廣井勇氏の功績等、当時の貴重な資料をもとに詳しい説明があり、小樽の歴史を学ぶには大変分かりやすい構成となっています。「北海道の『心臓』とよばれたまち・小樽」は日本遺産候補地域に認定されていますが、石川館長は、「日本遺産登録を目標とせず、歴史的価値のある施設や街並みをどのように活用していくのかを市民一人一人が考えていくことが大切である。」と語っています。本動画を通して、小樽市にとって今後大切にしていきたいものは何かについて考えるきっかけとなることが期待されます。

小樽市内にある文化財等を学習するにあたり「教材『小樽の歴史』」も併せて活用いただければ、より一層子供たちが小樽の歴史や文化を身近に感じられるものになると思います。各学校においては、「教材『小樽の歴史』」の創意工夫ある活用を期待しています。



### 令和4年度 北海道教育研究所連盟夏季研修会報より

令和4年7月29日(金)に実施された標記の件について、本研究所から佐藤充研究員(銭函小)が参加しましたので概要について紹介します。

#### 1 学習評価の工夫・ルーブリック作成の手順【説明・演習・協議】

##### (1) 評価の基本的な考え方

- 学習評価の基本的な考え方としておさえておきたいのが、①児童生徒の学習改善につながるものにしていく②教師の指導改善につながるものにしていく③必要性・妥当性がみとめられないものは見直していく、の3つである。
- 評価の際に、児童生徒に各教科等において身に付けるべき資質・能力の具体的なイメージを持たせることや、学習の見通しをもたせ自己の学習の調整を図るきっかけとなる必要があるため、評価の方針等を児童生徒と共有していくことが大切である。

##### (2) 学習評価の1つとして「ルーブリック」という有効な方法がある

ルーブリックとは、端的に言うところ「評価基準表」のこと。児童生徒を評価活動に参加させる取り組み。例えば、レポート課題や発表において、成果の基準(A・B・C)を質的な記述で表したものを教師と子供が共有し、児童生徒が自分自身で評価(自己評価)したり、友だちと評価(相互評価)し合ったりする。その過程において、自らの学習を客観的に捉える能力(メタ認知能力)や学習意欲を高めたり、学習内容に対するより深い理解をもったりできるのではないかと注目されている。

- グループに分かれて、ルーブリックの作成の演習を行った。参加者との交流の中で出たことは、今まで先生方が当たり前のように口頭で話していたことを言語化して表記することで、学年間のずれの解消や児童の明確な目標づけになるなどメリットがある一方、校内の先生方の理解や作成にかかる時間の確保などが挙げられた。いずれにしても効果的であることは間違いないため、先生方の理解を図る校内研修や作成時間を通して、少しずつ作っていくことが大切であると考える。

##### (2) 1人1台端末の効果的な活用【講義・協議】

- 1人1台端末の活用について、前提として“使うことが目的”ではなく、“ねらいを達成するためのツール”であることを確認したい。
- 参加者が持ち寄った各教科での実践交流の場面では、国語科の物語の学習の際ジャムボードの付箋機能を使って大まかに内容をおさえるアニメーション的に内容を抑える実践や、生活科の学習で町探検する施設について知っていることをロイロノートを活用して児童生徒1人1人の考えを共有し効果的な対話に繋げていく実践などを交流した。

# 教育研究所情報

## 教育相談の状況と改善に向けて

### 1 教育相談の状況について（教育研究所関係分）

8月31日現在、今年度教育研究所に寄せられた相談は合計12件12回（電話12回）ありました。昨年度同期の相談件数は、26件28回（電話26回、メール1回、来所1回）でしたので、今のところ減少傾向にあります。

相談の内容としては、担任等の指導や言動が子供や保護者の理解を得られず、子供の心を傷つけたり保護者からの信頼を損ねたりしてしまう事例や、様々な理由による不登校の悩みが多く見られました。

### 2 教育相談からみる学校改善

相談の多くは学校が速やかに対応し解消されていますが、不登校については、その要因が個人にかかわる問題によるものが多く、早期解決が難しいケースが見られます。各学校においては、日頃から子供の些細な変化も見逃さない体制と、子供の心に寄り添った居場所づくりに努めるとともに、子供や保護者に教育活動の目的や意図について理解を図り、信頼を深めながら取組を進めていくことが大切です。



ICT 支援員より

## 子どものキーボード入力はできていますか？

現行の学習指導要領では、情報活用能力（情報モラルを含む）が「学習の基盤となる資質・能力」の一つと位置付けられました。また、GIGAスクール構想では、「いつでもどこでもインターネットにつなぎ、調べ学び考え対話する知的な活動を行う」ことをねらいとしています。その中で、小学校高学年や中学生でキーボード入力等のコンピュータの基本操作がおぼつかない児童生徒が少なからずいませんか。コンピュータの操作スキル不足が原因で情報を活用できる子供と活用できない子供との差が広がり、様々な場面でのモチベーションの減退につながることもあります。操作スキルを確実に身につけさせ、すべての子供を取り残さない情報活用能力の育成に努めなければなりません。そのためには各学校で学年毎にコンピュータの操作スキルの目標を設定し、確実に達成する必要があります。

## 「不登校児童生徒の支援について」

スクールソーシャルワーカー(SSW)より

不登校の取組は、第1段階「未然防止」、第2段階「初期対応」、第3段階「自立支援」の3段階とされています。

「未然防止」では、普段の授業、生徒指導、学校行事等、日常の学校全般の取組の中で児童生徒の健全育成を目指す「魅力ある学校づくり」が重要になります。

「初期対応」では、児童生徒や保護者からのサインや訴えに対して「早期発見・早期対応」で丁寧な対応が重要です。「初期対応」に丁寧すぎるということはありません。

「自立支援」では、文部科学省は平成28年の通知で、「不登校児童生徒への支援は『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること」としています。学校で不登校と認識される児童生徒は「事後の対応・ケア」が重要になり、「自立支援」の対象になります。従って、不登校児童生徒やその保護者に将来自立するために何が必要なのかを強く働きかけることが重要と考えます。

